日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所　日本産業衛生学会九州地方会
〒890
鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘８丁目35-1
鹿児島大学医学部衛生学講座
TEL(099)275－5291
FAX(099)265－8434
発行責任者：地方会長　松下敏夫

（題字　倉恒匡徳筆）

創刊にあたって

日本産業衛生学会九州地方会長　松　下　敏　夫
（鹿児島大学医学部衛生学講座　教授）

此度、長年の懸案事項であった九州地方会の情報紙「産衛九州」の発行が、ここに実現する運びとなりました。種々の困難な条件を乗り越えて、この貴重な一歩を進めて頂いた編集委員長の三角順一大分医科大学教授を始め、編集委員各位や執筆・発行に協力して頂いた皆さんに、心から感謝申し上げます。

申し遅れましたが、昨年４月から、計らずも、児玉泰先生の後を引き継いで伝統ある九州地方会の会長をお引き受けすることになりました。何分非才の身ではありますが、宜しくご協力の程、お願い致します。

ところで、平成８年度の第１回地方会理事会では、別掲のように、本地方会が抱えている諸課題に効果的に対応していくために、「地方会史編集委員会」「地方会ニュース編集委員会」などの問題に関して、担当理事制を採用して運営することになりました。しかし、それぞれの課題は種々の困難な問題を含んでおり、担当理事の力だけでは対応し得るものではありません。会員の皆さんの積極的なご協力をお願い致します。

さて、九州地方会総会は、平成８年度は、友国勝麿佐賀医科大学教授を学会長として、４月に佐賀市で盛会裡に開催されました。また、平成９年度は、７月に馬場快彦福岡産業保健推進センター所長を学会長として、福岡県久山町で開催されることになっております。今年も、会員各位が、日頃の研究成果をこの会に持ち寄ると共に、相互に有益な情報交換を行い、更に親睦が大いに深まることを期待しております。

ご承知のごとく、近年、「参加型」の産業保健活動の展開が極めて重要視されてきております。此度創刊された「産衛九州」が、九州地方会員の文字通り「参加」の元に育成され、九州地方会活動の一層の発展のために、大いに貢献することを期待して、扉の言葉といたします。

産衛九州の発刊に寄せて

倉　恒　匡　徳（九州大学 名誉教授）

「産衛九州の発刊に寄せて」と題して至急執筆してくれと、地方会ニュース編集委員会から突然依頼を受けた。「産衛九州」が刊行されるようになった経緯も、その目的も内容も全く知らないので、甚だ困惑した。編集委員会に電話をして、ある程度事情は分かったが、良くは分からない。幸いにして、自由に書いてくれということであったので、誤解があることを危惧しつつ、以下取り急ぎ私見を述べてご依頼に応えることにする。

率直に言って、私は「発刊」の必要性や意義が良く分からない。発刊の目的は、地方会会員の産業衛生に関する研究や実践活動や、九州の産業界や産業衛生に関連する大切な情報を、広く会員に知らせることにあると推測するのだが、それ程九州地方会の会員の間で、必要な情報の交換が不足していて、研究や実践活動の妨げになっているのであろうか？情報交換の発達したこの時代で、この新しい「刊行」が情報普及の改善にどれだけ貢献するのであろうか？疑問に感ぜざるをえない。

それに、刊行の世話をされる編集者の労力も無視できないのではないかと思う。もし、研究や実践活動に心血を注ぎつつも、余力で楽に編集できるのであれば、危惧する必要もないかもしれないが、果たしてそうであろうか？私の経験から言えば、実のあるものを定期的に編集し刊行するためには、たとえそれが小さくとも、編集者の負担は大きいものである。（余力で楽に編集・刊行ができるものは、本来刊行する意義の小さいものである。）従って、寸暇を惜しんで研究や実践活動に打ち込んでいる若い有為の人材に、編集作業などを押しつけては可愛そうである。「産衛九州」の発刊を強く主張した人々こそ編集の労をとるべきであろう。

それから、地方会のニュースは、全国の会員にも知ってもらうべきことだと思う。そのために、地方会ニュース編集委員会によって集められた情報は、「産衛九州」として刊行されるのではなく、「産業衛生学雑誌」の「お知らせ」欄等に発表されたほうが、良いのではないかと思う。編集委員の労力を減らす面から言っても、また経費面から言っても、学会のためにも、望ましいことではなかろうか。できればご検討下さい。

以上、折角の発刊に水を注すようなことばかりを言って申し訳ありません。地方会が熟慮の末発刊を決定されたのでありますから、編集委員の苦労を会員が良く理解して、両者の良き協力のもとに、内容の豊富な刊行物が誕生し、所期の目的が達成されることを祈ります。そして、私の危惧が杞憂に過ぎないことを立証して頂きたいと思います。

これからの諸行事予定

平成９年度日本産業衛生学会九州地方会開催のお知らせ

平成９年度学会長　馬　場　快　彦
（福岡産業保健推進センター　所長）

１．開催日時、場所

日　時：平成９年７月11日（金）　13:00～17:00
　　７月12日（土）　9:00～12:00

会　場：ひさやまヘルスC&Cセンター
〒811－25 福岡県粕屋郡久山大字久原1822－1
JR篠栗駅より徒歩約20分、タクシー約5分

日　程：７月11日　評議員会　12:00～12:50
　　一般発表　13:20～15:00
　　特別講演　15:00～16:00
　　「新しい健康開発の拠点をめざして」
　　―ひさやまヘルスC&Cセンターの活動―
　　藤　野　武　彦
　　（九州大学健康科学センター助教授）
　　総　　会　16:00～17:00
　　懇　親　会　17:30～19:00
　　グループ討論　19:00～21:00
　　７月12日　一般発表　9:00～12:00

２．参加費
2,000円（会員、当日会員とも）

３．懇親会参加費
4,000円

４．一般発表申込み
５月12日までに、所定の様式にて学会事務局までお申し込み下さい。

５．宿　泊
今回は一泊合宿の形を取りますので、隣接するホテルを一括予約いたします。
宿泊をご希望の方は所定の様式にてあらかじめ学会事務局までお申し込み下さい。

６．学会事務局（演題・宿泊申し込みおよび問い合わせ先）
〒812　福岡市博多区博多駅東1－10－27
アスティア博多ビル5F
労働福祉事業団福岡産業保健推進センター　馬場　快彦
TEL　092－414－5264
FAX　092－414－5239

九州地方会理事会・総会関連事項

本部理事会の報告

大久保　利　晃
（産業医科大学環境疫学研究室　教授）

学会総会も近いので、個別事項の経過報告はそちらに譲り、選挙制度改正の討議経過をご報告したいと思います。選挙制度に関しては、理事定数の変更を当地方会から申し入れた経緯もあり、皆様の関心が深いと思います。四国地方会の大原教授を委員長として、私を含めた３理事が委員、それに藤木副理事長が加わる理事会の小委員会で検討を進めています。まず、現在の問題点として、１）全会員による、理事長、副理事長、監事の直接選挙は、誰が良いか分からない、２）理事、評議員の定数が多すぎる、３）地方会別会員当り理事数に差がある、の３点だということで、現在までに、理事定数を３５名から２５名に減らすことが理事会として確認されました。選挙方法としては、地方会長を自動的に理事にし、残り１６名の理事は全国選出にすること、理事長は立候補制とし、評議員による選挙、副理事長は理事長指名、監事は前期理事会推薦などの案を中心に検討中です。今年１年間討議を重ね、来年の総会で決定、次回選挙に間に合わすということで、急ピッチに検討が進んでいますので、ご意見を是非お聞かせ下さい。

平成８年度日本産業衛生学会九州地方会総会　議事録のまとめ

日　時　：平成８年４月21日（日）　13:00～13:30
場　所　：アバンセ　ホール
司会者　：市場　正良（佐賀医科大学　地域保健科学教室）
物故会員の報告：黙禱　楠本昌子会員、前田實行会員
地方会長挨拶（松下敏夫会長）
学会長挨拶（友国勝磨学会長）
総会の成立
総会出席者数　58名、有効委任状　264名、合計322名（現在の会員数619名、定足数124名）よって、総会は成立した。
議長の選出
議長：西住昌裕教授（佐賀医科大学）
議事録署名人の選任
嵐谷奎一会員並びに原田幸一会員が選任された。
議　題
1）平成７年度事業及び決算報告について（松下地方会長）
原案（決算報告資料１参照）通り承認
監査報告（三浦監事）
2）平成８年度事業計画及び予算案について（松下地方会長）
原案（決算報告資料２参照）通り承認。

3)　監事の選任について（松下地方会長）

評議員会の推薦通り、石西　伸会員並びに三浦　創会員が選出された。

4)　平成９年度地方学会開催について（松下地方会長）

評議員の推薦通り、平成９年度地方会長として福岡産業保健推進センター所長・馬場快彦先生が選出された。

報告事項

日本産業衛生学会本部理事会の内容について（大久保理事）

次期学会長挨拶（馬場次期学会長）

平成７年度決算報告

収入の部

平成６年度繰越金	260,247円
平成７年度第１回交付金(483名)	579,600円
平成７年度第２回交付金(73名)	87,600円
次期役員選挙事務費積立てより	80,157円
利　息	254円
計	1,007,858円

支出の部

地方会学会開催費	150,000円
研究会補助金(3回)	150,000円
第５回産業医・産業看護全国協議会補助金	100,000円
九州における産衛活動調査費(積立)＊	100,000円
次期役員選挙事務費	120,067円
連絡通信費	68,254円
消耗品費	0円
会議費	20,510円
計	708,831円

平成７年度繰越金　299,027円

＊（九州における産衛活動調査費　1,253,870円）

学会研究会報告

日本産業衛生学会生物学的モニタリング研究会を開催して

川　本　俊　弘
（産業医科大学衛生学講座 教授）

日本産業衛生学会第17回生物学的モニタリング研究会を平成８年12月14日(土)に産業医科大学ラマツィーニ・ホールにて開催いたしました。自治医科大学衛生学教室の野見山一生教授に「新たな『カドミウムの生物学的モニタリング指標』」というテーマで特別講演をしていただきました。シンポジウムは「これからの生物学的モニタリング指標」というテーマで、九州地方会会員でご活躍中の佐賀医科大学地域保健科学教室 市場 正良先生、九州大学医学部衛生学講座 大村 実先生、産業医科大学産業生態科学研究所職業性腫瘍学 平野 雄先生、産業医科大学医学部衛生学教室 松野 康二先生に日頃の研究成果を発表していただきました。また、労働衛生検査専門講習会の講師の先生方をお呼びして、「クロスチェック―ここがポイント―」という教育講演を設け、いままで関東に行かなければ聞けなかった講習内容を九州でお話ししていただきました。年末の忙しい時期にも関わらず全国から80名近くの参加者があり、活発な討論が終日行われました。

最後にご後援いただいた日本産業衛生学会九州地方会および御参加いただいた会員の皆様に御礼申し上げます。

第11回健康管理研究会

高　田　和　美
（産業医科大学 客員教授）

平成８年11月29日、九州エネルギー会館(福岡市)において開催した。

総会のあと、次のような内容の特別講演を３題が行われ、130余名の出席者に良い刺激を与えた。

Ⅰ．「肺癌の早期発見」城戸春分生先生(福岡結核予防センター)；1980～1989年に発見された肺がん、肺結核についてユニークな解説を試みられ、これからの考え方を示して下さった。

Ⅱ．「労働安全衛生法改正と今後の産業保健活動」馬場　快彦先生(福岡産業保健推進センター)、法改正の経緯、改正条項のポイント、産業保健活動の具体的な進め方を話して下さった。

Ⅲ．「素材との遭遇―どこまで予測できるかー」東　敏昭先生(産業医大・作業病態学)、開発されてくる新素材への関心とデータ収集の必要性、石綿代替品、フロン代替化、MSDSについてわかりやすく解説して下さった。

平成８年度産業看護研究会

福　光　ミチ子
（ひさやまヘルスC&Cセンター　所長）

当部会は、産業現場に働く看護職の唯一の勉強の場として発足して以来40年を迎えました。これまでの実践を基盤により充実した活動を展開していくため、平成８年度より会の名称を従来の「産業保健婦・看護婦研究会世話人会」から新たに「産業看護部会」と改めました。平成８年度の研究会は、「働く人のQOLを高めるために」をメインテーマとし、インタビュー形式で「労働安全衛生法改正に伴う保健婦の役割」について理解を深め、働く人の生涯支援の面から「産業保健と地域保健の連携」についてフォーラムを、また九州地方会の看護部会としての活性的交流にむけて各県の代表にお集まりいただき、各幹事会報告を含めた情報交流を企画しました。

結果として、当日回収したアンケートでは、時代の背景とマッチしたタイムリーな内容であり、質的にも量的にも充実した内容であったことや、ネットワーキングも今後引き続き発展してほしい希望等前向きの意見が多く、当研究会への期待が伺われ、委員一同平成９年度企画に意を新たにしているところです。

プログラム：下記の通り
参加者数　：148名

プログラム

メインテーマ
〈働く人のQuality of lifeを高めるために〉
日　時　平成8年11月30日(土)9:00～16:30
場　所　福岡県看護等研究研修センター　3階講堂(福岡市中央区)
内　容
対談「労働安全衛生法の改正のポイントと看護職の役割」
話し手　馬場　快彦(福岡産業保健推進センター所長)
聴き手　山下　珠美(福岡シティ銀行健康保険組合)
産業看護ネットワーク・トーキング
コーディネーター　福光　ミチ子　ヘルスC&Cセンター
①幹事会報告　加藤　登紀子
産業医科大学産業保健学部教授
日本産業衛生学会産業看護部会幹事
②各県活動報告　沖縄、鹿児島、宮崎、大分、熊本、長崎、佐賀、福岡
フォーラム「地域保健と産業保健の連携」―21世紀に向けて―
講　師　重松　峻夫　福岡大学公衆衛生学教授
発言者
地域保健の立場から　平井　順枝　筑後市役所
若松　道子　筑紫野市役所
野口　洋子　岡垣町役場
産業保健の立場から　森中　恵子　九州電力(株)
西　雅子　朝日新聞健康保険組合
住徳　松子　日通商事(株)福岡支店
コメンテーター　鈴木　美代　(社)福岡県看護協会職能理事
伊藤　直子　福岡県立看護専門学校保健婦科長
司　会　藤原　直子　九州電力(株)
日笠　理恵　福岡県市町村職員共済組合

特別寄稿

九州労働衛生コンサルタントの活動状況

日隈　哲男
(労働衛生コンサルタント会大分支部　支部長)

昭和22年、労働基準法により、常時50人以上の事業場に医師である衛生管理者を選任することが義務づけられ、昭和47年に労働安全衛生法が制定され、産業医制度ができた。

各都道府県医師会では産業医部会ができ、産業医学に対する関心が高まり、同時に労働衛生に関する専門的な知識と技術を持った人により、企業の診断や改善指導を行うことを業とする労働安全衛生コンサルタント制度が発足した。特に、6月1日～6月30日は労働安全衛生コンサルタント制度促進月間でもある。

九州では、労働安全衛生法ができて以後、労働衛生コンサルタントは毎年5名ぐらい増え、5年後(昭和52年)には、福岡、長崎、大分の各県では組織化がはじまり、更に10年後(昭和57年)には、九州全体が組織化され、69名となった。昭和62年には、全国に先駆けて、安全部会と衛生部会が合併して、九州労働安全衛生コンサルタント協議会が発足した。その後10年経過した平成9年には3割程度増員し、121人となり、未登録の人も入れると250人を越していると思う。

労働衛生コンサルタントの中の27%は50人以上の事業場で産業医として働き、残りの73%の人は中小企業で働いている。

アンケートによると、(84.4%の回答率)

コンサルタントを専業にしている	10%
コンサルタントを兼業して働いている	18.3%
企業内で働き、なおかつ兼業して働いている人	14.1%
本業が別にあるのでコンサルタント活動ができない	21.6%
企業に勤めているのでコンサルタント活動できない	20.4%

上記のような結果を得た。

九州労働安全衛生コンサルタント協議会の役員は次の方々によって構成されている。

会　長	馬場　快彦	(福岡)	衛生
副会長	黒瀬　正行	(長崎)	安全
副会長	中川　正明	(福岡)	衛生
副会長	日隈　哲男	(大分)	衛生
常任理事	秋吉　一男	(福岡)	安全
常任理事	酒井　淳	(福岡)	衛生
幹　事	14名(各県より選出)		

任期は2年で、毎年一回、春には各県で支部総会を開き、秋には九州労働安全衛生コンサルタント協議会の総会を九州各県持ち廻りで開催している。

昨年は11月9日(土)かごしま林田ホテル近くのNCプラザで総会を開いた。

情報交換の場として、各県の実情を報告していただき、昨年10月1日に産業医についての法改正について、職場における健康管理を徹底する意味で産業医の活用を、産業保健サービスについては企業規模による格差の解消、及び労働者自身による健康管理努力を主点にすることについて話し合った。

最近2～3年間の研修会ではISOやPL法について(長崎)、安全と衛生のつながりを求めて(熊本)、平成8年は最近の産業保健の話題について研修した。

次回は沖縄で九州労働安全衛生コンサルタント協議会を開催することが決定されている。

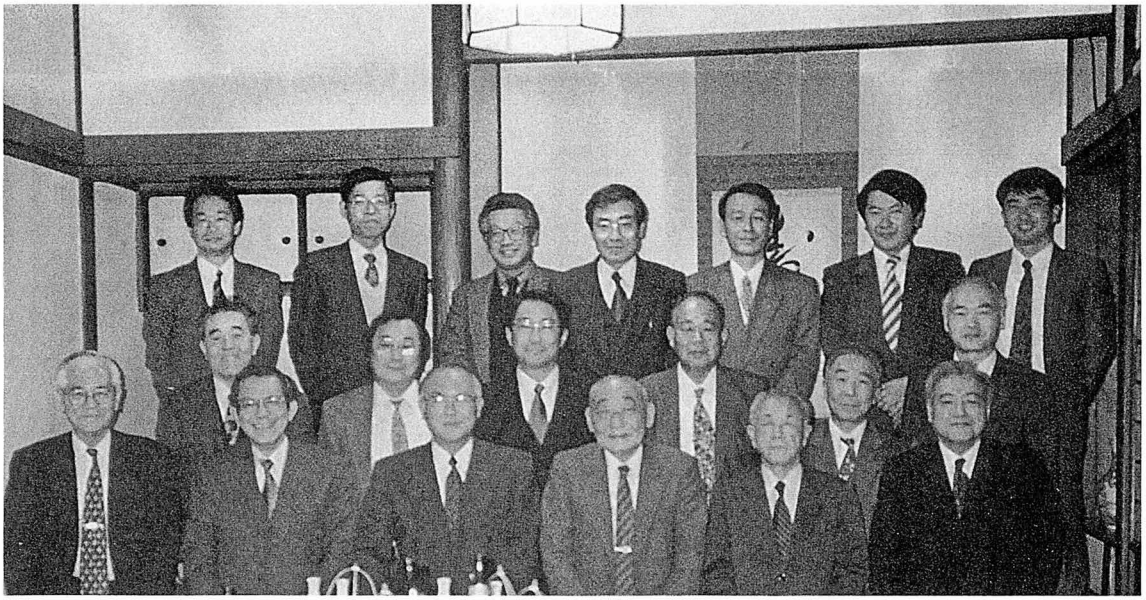
産業衛生学会奨励賞を受賞して

永　野　　恵
（熊本大学医学部公衆衛生学講座）

「有機溶剤の神経毒性の発症機序に関する神経生化学的研究」という業績課題で、思いがけず第８回日本産業衛生学会奨励賞を頂きました。これは産業神経毒物の中でもとくに、neurofilamentous axonopathy を起こす化学物質(n－ヘキサン、アクリルアミド、塩化アリル等)に焦点をあて、これらの毒性発症機序に共通のメカニズムと物質間の差異を明らかにしようと試みた一連の実験研究ですが、研究はまだ中途で、多くの検討すべき課題が残されています。動物愛護が叫ばれ、国内外ともに動物実験の是非が問われ、産業中毒の分野でも動物実験は減少の一途ですが、常に公衆衛生学的立場から、中毒の予防に資する研究ができたらと日頃考えている次第です。また、このような実験的研究だけではなく、産業現場の問題にも取り組み、今後少しでも地域の産業保健に貢献できればと思っています。最後に、多大なご指導を頂きました、大分医科大学の三角順一先生、熊本大学の野村茂先生、二塚信先生、原田幸一先生、山本秀幸先生に心からお礼申し上げます。

日本産業衛生学会九州地方会理事役割分担表

(1) 地方会史編集委員会	正責任者：酒井　淳	(5) 若手研究者問題	正責任者：児玉　泰
	副責任者：二塚　信		副責任者：田中勇武
(2) 地方会ニュース編集委員会	正責任者：三角順一	(6) 産業医部会	正責任者：大久保利晃
	副責任者：馬場快彦		副責任者：高木　勝
(3) 地方会研究会	正責任者：友国勝麿	(7) 産業看護部会	正責任者：高田和美
	副責任者：常俊義三		副責任者：山浦隆宏
(4) 国際交流	正責任者：竹本泰一郎	(8) 地域産業保健推進	正責任者：馬場快彦
	副責任者：有泉　誠		副責任者：山浦隆宏



役　員　紹　介

学　会　長

松下　敏夫(鹿児島大学医学部衛生学講座 教授)

昭和33年に名古屋大学を卒業、衛生学講座（井上俊教授）で産業保健の手ほどきを受け、昭和44年に熊本大学、51年から鹿児島大学に奉職し、現在に至っている。主たる研究領域は、産業保健と農村医学で、特に、職業性アレルギーや農薬による健康障害の発生機序とその対策に重点をおいている。恩師の薫陶を得て、医学史にも関心を持っている。

監　　事

石西　　伸（中村学園大学教授、九州大学名誉教授）

昭和28年九州大学医学部衛生学講座助手、講師を経て、昭和38年から２年間産業医学および大気汚染の研究のためアメリカ合衆国ピッツバーグ大学へ留学しました。帰国後、九州大学医学部衛生学講座助教授を経て、同教授に就任しました。平成３年から中村学園大学家政学部において衛生・公衆衛生学を担当しています。ライフワークとしてゼイーゼル粒子など環境汚染物質による生体影響や産業衛生分野では重金属中毒、その中でもヒ素化合物の代謝、毒性、発がん性の研究に取り組んできました。

三浦　　創（銀杏学園短期大学教授、熊本大学名誉教授）

昭和28年京大医卒、京大公衆衛生助手を経て昭和35年長崎大医公衆衛生助教授、同46年熊本大医衛生教授、平成５年定年退官、熊本大学名誉教授、定年後は銀杏学園短期大学教授看護科科長として現在勤めていますが、本年70才になりますので、来春第２の定年を迎える予定で、文字どおり『サンデー毎日』になる事を楽しみにしています。産業保健の分野では主に重金属中毒、特に鉛とポルフィリン代謝異常のメカニズムを追究してきて、ささやかながら鉛中毒の早期診断と予後判定のお役に立った様に思います。今後も皆様の産業保健活動に何らかのお役に立てばと願っております。

本部理事

大久保　利晃(産業医科大学環境疫学研究室　教授)

（本部理事、産業医部会幹事、専門医制度事務局）

九州地方会に来て満１４年間、産業医大の設立目的である、卒業生を産業医に育てる仕事に専念して参りました。当時は、ベテラン専属産業医の高齢化が頂点に達しており、最も若手でも50歳代後半という時代でしたから、医学部新卒の医師にとって、すぐに産業医になるという卒後進路は全く頭に浮かばない状況でした。大学内に産業医学基本講座と、産業医になるためのレジデントコースができ、学外の環境も変わり、医師会認定医と、学会専門医の両制度が誕生し、とうとう産業医の選任基準に研修終了の条件が加えられました。まさに隔世の感です。産業医大だけでなく、他学卒業生からも若手の産業医がどんどん誕生し始め、本学会の将来が楽しみです。こんな訳で、いつの間にか産業医制度作りにどっぷりと浸かっている私です。よろしくお願いします。

高田　和美(産業医科大学 客員教授)

平成３年４月、産業医科大学に新設された産業医実務研修センターの初代所長として着任しました。

昭和28年久留米医科大学卒業、三井産業医学研究所、九州大学衛生学教室での研究を経て、三井鉱山、三井石油化学に32年間つとめました。研究テーマは、衛生管理組織、交替勤務制、健康教育などです。現場の産業医を長くつとめましたので、日本産業衛生学会では産業医部会長を続けています。

本年５月24日、25日、第６回日本健康教育学会総会(於産業医科大学)の学会長をつとめます。

よろしくお願いいたします。

理　　事　（五十音順）

有泉　　誠（琉球大学医学部医学科保健医学講座　教授）

山梨県に生まれ（18年）、金沢で大学生活と公衆衛生の基礎を学び(20年)、現在沖縄にて７年目です。沖縄の地理のそれは、日本列島の縮尺版と考えることもできそうです。歴史的、文化的にも産業とそれをとりまく保健問題にしても、「沖縄から日本を観る、日本から沖縄を観る」目が必要かと思います。様々な活動を人間生活の場の中で統合していくことの重要性も考えられます。沖縄における産業衛生のさらなる振興に関して地方会の皆様の御協力をお願いいたします。

児玉　　泰(産業医科大学　名誉教授)

昨年３月に産業医科大学を定年退職し、少しは自由な時間がもてるようになるものと思っていたのですが、相変わらず多忙ななかに一年が過ぎ去ってしまいました。現在は複数の大学で非常勤の科目担当者として毎週講義をするかたはら、国および地方行政の委員として、私の経験が少しでも社会に貢献できればと思いながら過ごしています。産衛地方会ニュースの発刊も以前から言われていたのですが、私の会長時代までは用務、諸般の事情により実現できませんでした。今般ここに会員のご努力によりその一歩を踏み出すことになったのは喜ばしい限りです。九州地方会のますますの発展を期待する次第です。

酒井　　淳（九州健康総合センター）

生年月日　　昭和6年9月12日

昭和31年３月　九州大学医学部医学科卒業

32年４月　九州大学医学部助手。公衆衛生学講座で水島治夫教授、倉恒匡徳教授の指導を受ける。

36年４月　八幡製鐵株式会社入社、病院保健衛生課勤務。製鉄所の新技術の導入や新製品の開発に伴う有害物の衛生対策、職務分析、作業負担の調査、キーパンチャーの健康管理等を担当。

43年１月　労働医学研究課長

1970年　ＩＬＯが刊行したEncyclopedia of Occupational Health and Safety のIron and Steel Industryの項を分担執筆。

44年４月　第42回日本産業衛生学会、第６回日本産業医協議会が福岡で開催され、福島八幡製鉄所病院長が協議会

長を務めたため事務局を担当し、産業衛生学会の運営に参加することになった。

47年　社団法人日本産業衛生協会が日本産業衛生学会となり、倉恒九州地方会長の指示で九州地方会細則、役員選挙管理規定等を作成した。その後倉恒、野村、石西各地方会長のもとで幹事、選挙管理委員を務める。昭和47年より九州地方会理事。

48年1月　労働部衛生課長　八幡製鉄所の衛生管理の責任者として労働安全衛生法に基づく衛生管理体制の確立と衛生対策の推進を行う。

50年4月　労働部専門副部長、八幡製鉄所産業医

平成元年4月　労働部専門部長

10月　労働大臣功績賞受賞

2年10月　産業医科大学教授、進路指導部長

5年2月　日本産業衛生学会指導医

6年4月　九州健康総合センター

平成9年4月現在約20社の嘱託産業医

高木　勝(ブリヂストン久留米健康管理センター所長)

昭和47年久留米大学医学部を卒業。第三内科(木村　登教授)の門を叩き、循環器内科の臨床医を目指しました。大学で9年、公立八女総合病院の循環器内科医長として7年、患者さんに追われてバタバタと過ごしておりました。夜遅くまで忙しかったけれど、慣れてしまえば何と言うことも無く、「やり甲斐感」を持って仕事をしておりました。しかし、そのうちに段々と考えが変わってきました。死亡診断書を書く度に、臨床医の限界の様なものを感じるようになったのです。「予防医学」の重要性を認識し始めた丁度そのころ、先輩からブリヂストンが産業医を探しているがどうかというお話があり、昭和63年に方向転換しました。

まだ産業医になって10年目で、産業医の使命がやっと判りかけて来たところです。地味な仕事ですが、大変重要な仕事だと思います。臨床16年の経験を生かしながら、より良い産業医を目指して行きます。

今回は大変な大役を仰せつかり務まるものかと心配していますが、有名な先生方が揃っておられますので、御指導を仰ぎながら頑張って行く所存です。製造業の産業という立場からお役に立てる事もあるかと思っています。学会在籍歴も短く、駆け出し者ですがよろしくお願い致します。

竹本　泰一郎(長崎大学医学部公衆衛生学講座　教授)

昭和37年に北大を出てインターン後、大学院生として東大の公衆衛生学教室に入りました。小泉明助教授を始め根岸、鈴木(継美)助手など錚々たるメンバーに可愛がって頂きました。どうして、公衆衛生に進んだかと今だに自分ながら判りませんが、学生時代に保健医学研究会というサークルで炭坑で珪肺患者の調査をしたり、開拓部落で健康調査をしたりしていたのが何かのきっかけになっていたんだと思います。教室の先輩には企業の健康管理医も多く、あちらこちらの鉱山や工場で産業衛生の勉強をさせて頂きました。九州にも時々はお邪魔をしていました。宮崎県西都原営林署で局所振動障害の調査をしたり、屋久島の営林署で典型的な白指発作を見たことを憶えています。

大学院を修了して、前からパートで行っていたガラス工場の専属産業医を約1年していましたが、リストラ中の東大保健学科の人類生態の助手に来ないかというお誘いを頂いて東大に戻りました。実質的に教室を主宰していた鈴木助教授のご指導下、その頃ではまだ珍しかった原子吸光計で微量元素やら重金属の測定を始めた頃、大学紛争で建物が封鎖され、それ以後ラボの仕事からは離れることになってしまいました。紛争が終焉して鹿児島県のとから列島の調査やWHOの短期専門家として琉球大学保健学部の環境保健教育を担当していたりしてましたが、先に赴任されていた東北大の公衆衛生学の鈴木教授の助教授として仙台で4年を過ごし、昭和52年に長崎に赴任しました。

赴任当時から長崎県の道路整備員にも振動障害の認定患者がおり、今まで引き続きそれらの方々を含めて道路整備員の健康管理をお手伝いしています。労働基準局の衛生指導医、労働基準監督署の職業病相談員としてささやかながら地域に労働衛生に協力させて頂いてます。教室では永田助手を中心に産業精神保健にも関心をもつ人達が増えています。今まで長崎県で発生した数例の過労死についても御相談に乗って来ています。

産衛地方会理事会では琉球大の有泉教授とご一緒に国際交流担当です。留学生の受け入れや単位互換、Diplomaなどの問題を始めとして、アジア地域を中心とした学術・研究交流を進めたいと思っています。また、久留米大の的場教授とご一緒に産業衛生学会の労働衛生関連法制度検討委員会の委員も勤めさせて頂いていますので、この件につきましても色々と御意見を賜ければ幸いです。

田中　勇武(産業医科大学産業生態科学研究所教授)

昭和19年10月18日生まれ(52才)

1967年3月　九州大学工学部化学機械工業科卒業

4月　九州大学大学院工学研究科(化学機械工学専攻)入学

1972年3月　同上　単位取得の後 退学

4月　九州大学工学部助手(化学機械工学)

6月　工学博士取得

1978年1月　九州大学工学部助教授(化学機械工学)

1979年4月　産業医科大学医学部助教授(労働衛生工学)

1990年4月　産業医科大学産業生態科学研究所教授(労働衛生工学)

1995年4月　産業医科大学産業生態科学研究所所長(兼任)

現在に至る

現在の学会活動等

1984年4月　労働衛生コンサルタント(工第87号)

1989年4月　日本労働衛生工学会評議員

1990年4月　日本衛生学会評議員、日本産業衛生学会評議員

1991年8月　福岡県環境審議会委員

1992年7月　北九州労働安全衛生コンサルタント会副会長

1994年8月　日本エアロゾル学会副会長

1996年4月　日本産業衛生学会九州地方会理事

現在の主な研究領域

労働衛生工学、吸入暴露による生体影響、快適職場づくり

常俊　義三(宮崎医科大学公衆衛生学講座　教授)

1934年1月21日大阪で生まれる。和歌山県立医科大学卒業後、大阪大学医学部公衆衛生学助手(1961年1月1日)、大阪成人病センター調査部(1964年7月15日)を経て宮崎医大公衆衛生学教授(1976年4月1日)に就任し、現在に至っている。

主たる研究分野は野外調査を中心とした環境汚染物質の人体影響に関する疫学研究、特に大気汚染の呼吸器に及ぼす影響については

1966年以降多くの調査を行っている。宮崎医大着任後は宮崎労働基準局労働衛生指導医。医局員、宮崎労働基準監督署職業病相談員として宮崎県内の事業体の安全衛生、健康管理など各種の相談・指導に携わっている。また、近年社会的に注目されている大気汚染中に含まれている微量有害物質による癌の発生を未然に防止することを目的として設置された環境庁の各種委員会、中央公害審議会環境基準専門委員会委員として参画している。

友国　勝麿(佐賀医科大学地域保健科学講座　教授)

私は、昭和57年4月1日付で佐賀医大に赴任しましたので、この4月で丸15年になります。従って、佐賀医大の初代教官人事の内では最も遅い着任です(最初の方は54年4月に着任)、前任地の岡山大学医学部公衆衛生学教室では緒方教授の下で、最初の頃はトルエンを中心にした溶剤の暴露量と尿中代謝物の解析、その後は鉛暴露とポルフィリン代謝の乱れとの量・反応（影響）関係の解析を手がけてきました。特に後者の研究は佐賀医大に着任後も継続して行っていました。しかし、最近では、リンパ球DNA付加体分析による環境発がん物質のリスク評価に関連した研究を中心に、教室員が精力的に行っています。従って、私共は一貫して、実験科学的手法に基づく化学物質の健康リスク評価に関連した研究を行って参りました。クビにならなければ定年まであと10年弱ありますので、今後とも宜しくお願いいたします。

馬場　快彦（労働福祉事業団福岡産業保健推進センター所長）

私は昭和25年に三井鉱山㈱三井産業医学研究所に勤務しはじめてから46年間、産業保健関係の領域で働いてきました。三井鉱山㈱三井産業研究所での産業医学に関する研究に9年、三井鉱山㈱三池鉱業所での炭鉱の労働衛生管理に5年、福岡労働基準局および労働省での労働衛生行政に9年、西日本産業衛生会での企業外労働衛生機関としての活動に8年、産業医科大学での産業保健管理に関する研究・教育に8年、労働衛生コンサルタント事務所でのコンサルタント活動に3年、さらに現在の福岡産業保健推進センターでの事業所における産業保健活動の支援に4年といった産官学にわたる流浪の旅がその内容です。ともかく、憲法第25条（生存権・国の社会的使命）、第27条（勤労の権利及び義務、勤労条件の基準、児童酷使の禁止）に基づいて、勤労者の健康確保のために努めたいと思っている者です。

二塚　　信(熊本大学医学部公衆衛生学講座　教授)

昭和39年熊本大学医学部卒業、1年間の臨床研修の後、40年熊本大学大学院医学研究科社会医学系専攻、公衆衛生学教室にて 野村茂教授、高松 誠助教授の御指導のもとに第一次産業の労働衛生、特に林業労働衛生就中チェンソー、草刈り機等振動工具の使用による振動障害の研究に従事、、ライフワークの一つになる。1990年以来、東南アジアの熱帯雨林におけるこれらの問題に取り組む。先進諸国とは異なる様相を指摘、国際会議で議論を呼ぶこととなった。また、地元に発生の水俣病の疫学的研究に従事、患者・住民の後影響に関するフォローアップ研究は国立水俣病総合研究センターとの共同作業で継続の予定。歳を重ねても、フィールドの現実と向かい合っていたいと思います。よろしくお願いします。

三角　順一(大分医科大学公衆・衛生医学第2講座　教授)

昭和44年熊本大学医学部を卒業、同大学の公衆衛生学及び衛生学講座において恩師 野村　茂教授並びに三浦　創教授の御指導を仰ぎ、昭和61年大分医科大学 公衆・衛生医学(Ⅱ)講座へ転任。平成2年より外務省ＪＩＣＡ合同ドミニカ共和国医療プロジェクトの国内委員として、感染性下痢症の臨床研究予防のプロジェクトに参画、平成3年度文部省教科書検定調査員、平成8年6月より中央環境審議会専門委員会委員を拝命。学会関係では平成5年より日本情報文化学会理事、平成6年産業衛生学会九州地方会の開催を担当し、「21世紀をクリエイトする発想の原点を探る」シンポジウムを開催。平成7年より、日本産業衛生学会専門医制度委員会出題委員、8年より許容濃度委員会起案委員、日本衛生学会編集委員、平成8年より日本行動医学会理事、日本衛生学会幹事。

研究面では、産業化学物質の毒性機序及び相乗作用についての研究やバイオマーカーを用いた胃がんの検診システム及び胃がん発生要因の国際協同研究に重点をおいている。また、近年、「独創的発想・直感と創造」について強い興味を抱いている。

山浦　隆宏(西部ガス㈱)

山浦隆宏と申します。産業医として西部ガス㈱に勤務し、また福岡市医師会理事として産業保健も担当しております。若輩者ですので、ご指導の程、今後ともよろしくお願いいたします。

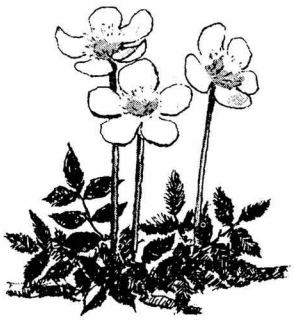
日本医師会の認定産業医制度は、まだ臨床開業医中心の運用です。平成8年の安衛法改正で、産業医資格の中心的存在に定義され、50人未満事業所に郡市医師会委託地域産業保健センター活用が努力義務化されたことなどから日医認定産業医レベルが日本全体の産業保健レベルを決めかねない状況になっております。開業医の方々は、厚生省・文部省管轄分野には精通してありますが、労働省分野の産業保健には苦手意識からあまり取組んで来てありません。ところが、昨今の諸般の環境変化から産業医への関心が非常に高まってきたものの、どう取組むかに戸惑ったまま、認定産業医は産業保健専門家だとの建前で、全国の地域産業保健センター事業が開始されています。

産業保健専門家の学会員の皆様の力をお借りしながら、地域産業保健の推進のため、学会と医師会の橋渡しに少しでも寄与できれば幸いです。

幹　　事

青山　公治（鹿児島大学医学部衛生学講座講師）

川本　俊弘（産業医科大学衛生学講座教授）



許容濃度分担表

(平成8年12月7日版)

顧　問

野村　茂　硫化水素(63)、硫酸(63)

原　一郎　オルトフタロジニトリル、シアン化カリウム、シアン化ナトリウム

山本　剛夫　騒音

委　員

池田　正之　エチルエーテル(66)、発がん物質表

石西　伸

圓藤　陽子　無水フタル酸、無水マイレン酸

大前　和幸　ホスフィン、セレン化水素(63)、三フッ化窒素、ジイソシアネート類、(OEL－B)二硫化炭素

香川　順　オゾン、二酸化硫黄、二酸化窒素

加須屋　実　Cd,酸化亜鉛ヒューム(69)、硫化ナトリウム、有機錫、(OEL－B)Cd

木村　菊二

小泉　昭夫　プロピレンイミン(67)、o－,m－p－フェニレンジアミン、メチルニトロアミン、ジメチルアミン

桜井　治彦

佐藤　章夫　ベンゼン、トリクロロエチレン、酢酸メチル(63)、sec－酢酸ブチル、cert－酢酸ブチル、(OEL－B)トリクロロエチレン

佐藤　洋　Hgおよび化合物、ゲルマニウム、テルル

島　正吾　Beおよび化合物(63)、石綿

鈴木　継美　Seおよび化合物(63)、アルキル水銀

竹内　康浩　p－ジクロロベンゼン(66)、エチルメチルケトン(64)、イソペンチルアルニール(66)、エチレンクロロヒドリン、エピクロロヒドリン

中明　賢二　クロロジニトロベンゼン、ジニトロフェノール、2、4、6－トリニトロフェノール

野見山一生　酢酸イソブチル、酢酸イソプロピル、酢酸イソペンチル、ブチルセロソルブ

堀口　俊一　塩素、p－ジメチルアミノアゾベンゼン、テトラエチル鉛

松下　敏夫　クロロピリフォス、メソミル、感作性物質、農薬、クロロピクリン(68)、(OEL－B)有機リン剤

矢野　栄二　石綿、ニッケル、ニッケルカルボニル、(OEL－B)クロム、ニッケル

山村　行夫　臭化メチル、臭素(64)、臭化エチル、ヨウ素、ヨウ化メチル

起案委員

圓藤　吟史　三酸化二砒素、アルミニウム、(OEL－B)砒素

河合　俊夫　(OEL－B)ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、アセトン

岸　玲子　スチレン(68)、2－アミノエタノール(65)、メタノール(63)、(OEL－B)スチレン、メタノール

日下　幸則　Beおよび化合物(発がん分類)、白金、Vおよび化合物(68)、コバルト

友国　勝麿　1,4－ジクロロ－2－ブテン、ヘキサクロロエタン、テトラニトロメタン、(OEL－B)トルエン、ベンゼン、キシレン、一酸化炭素

花岡　知之　無水トリメリット酸、2－ブロモプロパン

三角　順一　テトラクロロエチレン、1,3－ブタジエン、ヘキサクロロブタジエン、フェニルヒドラジン、(OEL－B)テトラクロロエチレン

臨時起案委員

橋本　和夫　アクリルアミド

専門委員

岩田　弘敏　局所振動、全身振動

清水　英佑　塩化ビニル、電磁場

田中　正敏　寒冷、高温

中川　正祥　電磁場

二塚　信　局所振動、全身振動

宮北　隆志　騒音

未　定　非電離放射線(レーザー、マイクロウエーブ、紫外線)

(　　)：古い提案年度の物質。数値の改訂の是非を含めて見直しが早急に必要な物質

OEL－B：生物学的許容値

産衛地方会学会開催地

年度	会長	学会場	学会長	参加費	懇親会費	全国学会	年度	会長	学会場	学会長	参加費	懇親会費	全国学会
昭50	倉恒匡徳	久大医学部	山口誠哉				昭63	石西　伸	九大医学部	廣畑富雄	1,000	4,000	
51	〃	九大医学部	石西　伸		2,000		平1	〃	熊大医学部	二塚　信	1,000	4,000	
52	〃	熊大医学部	三浦　創		1,500	昭和52年4月	2	〃	鹿大医学部	脇阪一郎	1,000	4,000	平成2年4月
53	野村　茂	鹿大医学部	松下　敏夫		1,500	久大医学部	3	〃	宮崎医大	常俊　義三	1,000	4,000	熊大医学部
54	〃	宮崎医大	白川　充		1,500	(高松　誠)	4	〃	福大医学部	重松　峻夫	1,000	4,000	(三浦　創)
55	〃	福大医学部	江崎　廣次		2,000		5	児玉　泰	産業医大	児玉　泰	1,000	4,000	
56	〃	長大医学部	中村　正	500	2,000		6	〃	大分医大	三角　順一	1,500	4,000	
57	〃	琉大医学部	赤松　隆	—	2,000		7	〃	琉大医学部	有泉　誠	1,500	4,000	
58	〃	産業医大	土屋健三郎	1,000	2,000		8	松下敏夫	佐賀市内	友国勝麿	2,000	4,000	
59	石西　伸	大分医大	荒記俊一	1,000	3,000		9	〃	福岡県粕屋郡	馬場快彦	2,000	4,000	
60	〃	佐賀医大	西住昌裕	1,000	3,000	昭和60年3月			ひさやまヘルス				
61	〃	長大医学部	竹本泰一郎	1,000	3,000	産業医大			C&Cセンター				
62	〃	久大医学部	的場恒孝	1,000	3,000	(土屋健三郎)							

外国人会員の声

日本の学会を参加から思い出す

趙　文元
（大分医科大学公衆衛生医学（Ⅱ）講座）

1994年から会員として、日本産業衛生学会総会はじめ、日本公衆衛生学会総会、日本衛生学会総会、日本農村医学会総会などに参加させていただき、総会参加者の人数（何千人）の多さに大変驚きました。私は、中国においても様々な学会に出ることがありましたが、より専門的な全国規模の総会は、ほとんど何百人程度であったと思います。学会に参加を希望する人は数多く、学会の学術委員会は参加者の絞り込みにいつも苦労しています。数多くの研究は発表の機会を得られず、また非研究機関の参加者もかなり限られていると思います。

もう一つ印象的な事は、日本においては学会誌に論文を発表する際には、投稿規定で会員のみに制限していることです。一方、中国においては、学会誌はある程度会員を優先致しますが、非会員からの投稿も数多く、学会誌発表の半分以上は非会員からのものであると思います。以前は、中国では学会誌の発刊にあたり国から補助があり、学会誌への発表は投稿料はフリーであるばかりでなく、逆に著者は原稿料をもらっていました。近年、多くの学会誌は赤字になったため、投稿料は支払う様になりましたが、なお原稿料は著者に支払われます。

幼いころ、「学問」と言う物は学ぶことだけでは「学問」ではない、ということを誰からか教えられた記憶があります。日本の学会に参加して、非常に勉強になりましたが、大多数の発表に対する討議が少し足りないのではないかと感じました。単に自分の研究を聞かせたり、他の研究者の研究発表を聞くだけでなく、積極的な質問、討議をしてこそ真の勉強を身につけることができるのではないかと考えています。

会員異動

平成8年度

新入会員　（平成9年3月21日現在）

福岡県　井手　玲子，伊藤　誠悟，井上　美和，今井　隆弘，今浪　美樹，今村　桃子，上田　信治，宇戸口　和子，江口　泰正，大園　裕，大竹　厚裕，大坪　浩一，加藤　文雄，木戸　義信，黒田　佳子，古賀　教子，小倉　尚光，古野　純典，坂田　茂，進藤　隆文，高橋　広行，多田　哲也，築村　哲人，築山　雄次，徳永　美恵，中村　譲治，納戸　玲代，馬場　郁子，林　春樹，疋田　理津子，古屋　宏子，中島　民治，真砂　満，増田　栄子，町頭　ゆう子，蓑田　智憲，宗清　正紀，森本　恵子，吉川　里江

佐賀県　張　久松，福田　貞義，宮崎　千賀子，渡辺　朋子

長崎県　内野　優美，吉村　浩行

熊本県　大森　久光，河野　富美香，小柳　英一，前田　充子，吉田　陽一

大分県　甲斐　志津子，江田　優子，河野　彰博，謝　同欣，田中　妙，辺　林，松本　實，森田　隆

鹿児島県　朝沼　榎，大平　孝子，小野田　恵子，河村　裕，中村　雅晴，南　幸弘，矢住　涼子

沖縄県　富銘　京子

編集後記

ここに、念願の日本産業衛生学会九州地方会のニュース「産衛九州」の創刊号が誕生致しました。編集責任者と致しましてこのことを会員の皆様と共に喜びたいと思います。発刊にこぎつけることが出来ましたのは偏に御多忙の中貴重な原稿をお寄せ頂きました諸先生方の御協力と会員各位の励ましによるものであります。

特に、突然のお願いにも拘わらず快く「産衛九州」の題字と率直な御意見をお寄せ頂きました九州大学名誉教授の倉恒匡徳先生に紙面を拝借致しまして心より御礼申し上げます。

また松下敏夫地方会長の発刊にかける情熱と固い決意並びに周到な計画性の賜と感謝申し上げる次第であります。

時代は激しく流れ、暦年の多い人の割合が変化し、国際社会の枠組や社会構造の転換が求められ、マルチメディアの名の下に情報が氾濫している昨今、物と事の本質を読み取る覚めた目、時代の先を感じ取る感性、若者のような情熱とたゆまぬ努力、更に21世紀をリードする行動力で新しい時代の産業医学の種子を蒔き、育てて行こう！「産衛九州」がクズカゴにでなく、人々の目に入れてもらえるように。

（三角　順一）

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行　平成9年3月31日

編集正責任者：三　角　順　一（大分医科大学）
編集副責任者：馬　場　快　彦（福岡産業保健推進センター）
編 集 委 員：青　木　一　雄（大分医科大学）
青　山　公　治（鹿児島大学）
石　竹　達　也（久留米大学）
市　場　正　良（佐賀医科大学）
畝　　博（福岡大学）
大　村　　実（九州大学）
川　本　俊　弘（産業医科大学）
新　城　正　紀（琉球大学）
永　田　耕　司（長崎大学）
福　光　ミチ子
（ひさやまヘルスC＆Cセンター）
前　原　正　法（宮崎医科大学）
宮　北　隆　志（熊本大学）
（五十音順）

〈編集事務局連絡先〉
〒879－55　大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1－1
大分医科大学公衆・衛生医学（Ⅱ）講座
（担当：青木，園田）
TEL (0975)86－5742
FAX (0975)86－5749